

債務責任に対する心理的動機付けと

マイクロファイナンス

松田慎一 名城大学

<要旨>

本論では Dhami, Arshad, Nowaihi (2022) に基づき、債務責任に対する心理的動機付けがどのように機能するのか検証を行った。DAN モデルでは、MF は経済的な誘因だけではなく、心理的な動機による guilt と shame による規範も借り手の努力に影響を与えている主張している。MF は集団により貸付と返済を行うため、集団というグループから社会規範が形成され、借り手の返済の心理として、その規範との葛藤が生じていると考えられる。これまでの MF の研究では、上述の議論を広く社会関係資本として捉えており、あるときは社会的制裁、あるときは MF を支えるものとした抽象化した概念を用いて、議論を進めてきた。DAN モデルでは、guilt を「相手の期待に答えられないとき生じる罪悪感」、shame を「社会集団の規範が守れないことに対する羞恥心」と捉え、MF のモデルに信念を通じた心理ゲームの内生化を行い、心理的動機付けを取り入れている。

本論の貢献は、DAN モデルに対して、モデルのメカニズムに対する立証が可能であるのか検証を行った点にある。ここでは比較静学を議論しており、より精度を上げて、偏効果を通じての全効果がどのように生じているのか、検証を行った。帰結として、DAN モデルのひとつの命題について、符号条件が逆転する可能性があることが示された。Guilt についての再度の検証が必要と考えられる。

キーワード： マイクロファイナンス、連帯保証・個人貸付、

心理的・感情的・社会的要因の役割

JEL classification： G21、G41、N25